



鹿児島県 鹿児島市遊技事業組合  
「カラー電車『青パト電車生活安全号』  
運用等による  
鹿児島市安心安全まちづくり活動の推進」事業



鹿児島市遊技事業組合  
組合長  
正 和仁さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会  
委員  
松尾守人氏



青パトを模したラッピング電車「生活安全号」の前面、側面に防犯標語と共に遊技業組合名と「パチロー君」を掲載して、市内で一年間走らせ、その出発式をイベントに仕立て上げるなどのアイデアで各マスコミに露出し、県民の大きな反響を呼んだ。

スポットを入れたラジオへ出演しての、組合の社会貢献活動についての広報も評価できる。各種支援活動や防犯行事への組合員参加など、県、市、警察当局の評価も高い。

市民への安心安全  
まちづくり啓蒙と  
組合広報を両立させた青パト電車

市民の足である市電に青パト電車が登場

1912年に運行を開始(1928年から市が運営)した鹿児島市交通局の市電は、日本最南端の路面電車として知られている。その市電に、今、ひととき目立つ車両が走っている。青色灯が付いた防犯パトロールカー風の車体に、防犯標語や特撮ドラマのご当地ヒーローとして鹿児島で大人気のキャラクター「薩摩剣士隼人」、さらに全日遊連のキャラクター「パチロー君」などがデザインされた「青パト電車『生活安全号』」である。

このラッピング車両を企画したのは、25法人のパチンコ・パチスロホールが所属する鹿児島市遊技事業組合である。「この企画は組合の社会貢献活動の一環として、また鹿児島市が取り組んでいる安心安全まちづくり活動に寄与することを目的に考案・実施したものです」と語るのは、鹿児島市遊技事業組合の正和仁組合長。

「鹿児島市の市電は現在、2系統あり、約15キロを走行しています。2012年10月10日から、その2系統で1日13～14回程度、青パト電車『生活安全号』を走らせていますが、月平均すれば約3000～4000キロの走行距離になります。市内中心部にいけば、見かける頻度はかなり高いと思います。『毎日、見かけるよ』と、お声をかけてくださる方もいます」と、正組合長。なかには始発駅である鹿児島駅の停車場まで行って、記念撮影をする人もいるそうで、特に子どもたちには大人気だという。

鹿児島市の市電では、すでに鹿児島県警察本部が主導して「交通安全号」を走らせていたが、今回の青パト電車「生活安全号」と合わせて、安心安全なまちづくりへの市民意識の高揚に向けた両輪が揃ったことになる。「この両輪を市民の皆様が目にする事で、自分の身は自分で守るという意識をしっかりと呼び覚ましてほしい。それによって鹿児島市が日本一、安心して安全な街になるように願っています」と、正組合長。



青パト電車「生活安全号」と「交通安全号」



車両側面には、防犯標語が書かれている



組合関係者が参加した出発式には、マスコミ各社が取材に訪れた



出発式には近くの幼稚園児が招待され、組合から防犯ブザーが贈呈された

社会貢献活動の大きな広報となった出発式

運行初日の10月10日には、鹿児島市交通局で出発式が開催された。「生活安全号」、「交通安全号」の2車両を前に行われた式典には、組合関係者や市交通局職員が参加したほか、近くの幼稚園の園児・保護者・先生ら約60名が招かれた。また、子どもたちに対して、生活安全号の車体に書かれた防犯標語「あやしい声かけには『いかのおすし』」について説明したのは、ご当地アイドル「サザン☆クロス」(P86～P87参照)のメンバーの2人。「いかのおすし」とは、「知らない人にはついていかない」、「他人の車にのらない」、「お声を出す」、「すぐ逃げる」、「なにかあったらすぐ知らせる」から作られた造語である。真剣に聞いていた子どもたちには、組合から記念品として防犯ブザーが贈られた。

また、この出発式には鹿児島県内の全テレビ局(NHK・

MBC・KTS・KYT・KKB)や各新聞社が取材に訪れ、当日及び翌日のテレビや新聞で報道された。さらに、当日午後には地元のFMラジオ局に鹿児島県遊技業協同組合の岡田陽一専務理事が出演し、青パト電車「生活安全号」をはじめとする組合の社会貢献活動を広報した。「当初は、市電車両に鹿児島市遊技事業組合の名称が入ることには交通局側は消極的でしたが、関係者の粘り強い交渉が奏功し、実現の運びとなりました。これによって遊技業界の社会貢献活動に対する認知度が向上することを期待しています」と、正組合長。このほかにも鹿児島市遊技事業組合では、市内で活動する青パト隊(78団体193台)に対する燃料費支援、交通死亡事故防止ラジオスポット放送、各種防犯大会・パレードへの参加、夜光反射材の提供などの活動を行っている。